支援方法を考える

龍谷大で活動報告討論会

龍谷大学の学生らで組織する震災復興支援団体「ともいきDAN」（高蔵大樹代表）は10月7日、ボランティア活動の報告討論会「学生ボランティアが見た仮設住宅の今」を京都市伏見区の同大学深草キャンパスで開いた。学生6人が現地での活動内容や感想、被災地への思いなどを語った。

学生たちは「何かしてあげるのではなく、話をしたり、遊んだり、一緒に過ごして寄り添うことの大切さを学んだ」「見てきたことや感じたことなど自分の経験を人に語ることも、支援の輪を広げることにつながる」などと発表した。

同時に、コミュニティー形成支援の難しさや、活動先で得たつながりを今後にどう生かしていくかなどの課題も出し合い、聴講者とともに討議した。

同団体は今年5月、学生を中心に結成し現在71人が登録。現地での活動、京都でできることの情報収集などを行っている。高蔵代表（文学部4年）は「気持ちに寄り添い、それぞれの得意分野を生かし、多角的な視点から息の長い継続的な取り組みを行っていきたい」と話している。

滋賀県大津市の瀬田キャンパスでも13日、同じ討論会を開いた。